2023.2.15.

小千谷市の乳児エコー検診が運動器の健康・日本協会の2023年度優秀賞を受賞しました

Bone and Joint Japan
運動器の健康・日本協会

https://www.bjd-jp.org/award/award_select_2023

Award
日本賞

2023年度 運動器の健康・日本賞

運動器の健康・優秀賞　選評

応募事業・活動の名称　**新潟県小千谷市における乳児股関節エコー検診**

応募団体・個人　新潟大学大学院歯学総合研究科 フレイル予防のための運動器科学講座

発育性股関節形成不全（DDH）の早期発見のために、新潟大学大学院医歯学総合研究科フレイル予防のための運動器科学講座は、乳児期に行われる股関節検診にエコー検査を導入した。特徴は、これを一次検診で実施している点である。一般にDDHの検診は、股の開き方や脱臼の有無などを視診や触診で調べ、異常やその疑いがあるケースを対象に二次検診としてエコーやX線などの検査が行われている。一方、この取り組みは、比較的経験の影響を受けにくいエコー検査を一次検診の段階で行うことで、早期発見の確実性向上を図っている。X線とは違って非侵襲であることも、乳児期の検査としては重要である。専門医の偏在や少子化などを背景に、乳児検診の質の確保が課題となる中、将来的にも、その意義を評価するものである。

これまでに、新潟県小千谷市で約3年の間に900人が受診し、1人の脱臼を早期発見した。ただ、成果はそれにとどまらないと考えられる。泣くこと以外に自ら症状を訴えることができない乳児期は、保護者にとっては心配事が尽きない。それだけに、エコー検診は安心感につながったものと推察される。

普及に向けて、技術開発の研究が進められ、エコー検診の実施者を増やすためのセミナーの開催などが計画されている。引き続き、エビデンスを積み上げて、この取り組みの効果に関する科学的説得力をさらに高め、今後の展開の加速につなげることを期待したい。